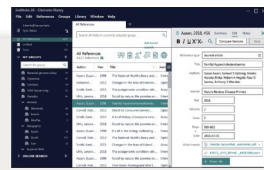


フィードバックからインスピレーションを得た「**新しいモダンルックと使用感**」を兼ね備えた

# EndNote™ 21



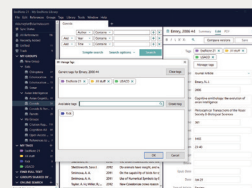
## 01 ライブラリの紛失や破損時の救世主 復元機能

ライブラリが失われたり、破損した場合でも、ライブラリを復元できるようになります。併せて、単一の参照レコードを復元する機能も備えています。自身のライブラリにあるレファレンスに誤って変更を加えてしまったり、ライブラリを共有している人から望ましくない変更が加えられたりした場合、時間を巻き戻してレファレンスを以前の時点に復元することができます。

ライブラリ全体やライブラリ構造を復元するだけでなく、どの時点でのバージョンに戻したいかを選択できるようになります。

## 02 常に整理された状態を保つことができる タグ機能

様々なタグを使用し、自身のライブラリやグループ内のレファレンスをより分かりやすく整理することができます。



## 03 ライブラリ 共有人数の増加

ライブラリ共有可能なユーザー数が、これまでの400人から、1,000人に増加しました。

## 04 新EndNote Web

デスクトップ製品との整合性を高めるため、新しいEndNote Webを構築。デスクトップから離れていても、新オンラインインターフェイスにアクセス可能になります。

※利用はEndNote 21ユーザーに限られ、購入日から3年間アクセス可能。

## 05 CWYWの拡張

CiteWhileYouWrite が Google Docs と WordOnline の統合された文書作成ツールへ拡張されます。

※今後のアップデートで実装予定。

従来のEndNoteの全機能と柔軟性は、もちろんそのまま。

### 文献の収集・管理



#### PDFファイルの取り込み

学術文献データベースやフルテキストPDFから、文献情報を簡単に取り込み。

#### 強力な検索機能

取り込んだPDFの本文も検索対象なので、キーワードを入力するだけで目的の文献が簡単に見つかる。

### 同期・共有



#### どこからでも 自分のライブラリにアクセス

オンラインアカウントと同期することで、職場・自宅・外出先・iPad・iPhoneからアクセス可能。

#### 文献共有に最適なライブラリ共有

共同研究や研究室内での他のEndNoteユーザーと、作成したライブラリを1,000人まで共有可能。

### 論文作成支援・引用



#### 参考文献リストを自動作成

EndNoteに保存された文献情報をドラッグ & ドロップで参考文献リストを瞬間作成。

#### 投稿規定に沿った体裁に一発変換

ジャーナル名を選択するだけで投稿規定が変更されるので、投稿先の変更も簡単に可能。

## EndNote™ 21 機関／部門ライセンスについて

【ライセンス形態】

**サイトライセンス**  
所属者全員利用可能

**年間ライセンス**  
小規模部門向け（5ユーザー以上）

**マルチユーザーライセンス**  
買い切りライセンス（5ユーザー以上）

\\ メリット① //

### 全員が最新環境で研究可能

サイトライセンスなどの年間購読ライセンスでは研究者ごとに使用するEndNoteのバージョンがバラバラになることなく統一された環境下で使用可能。

契約期間中に新しいバージョンがリリースされても、**無償でアップグレードが可能**。（マルチユーザーライセンスは除く）

\\ メリット② //

### 研究業績データの管理

研究者が自身の研究実績をEndNoteで管理することで、指定どおりのフォーマットで簡単にデータを出力可能。

研究者の業績を管理する部門でも、**正確なデータを統一のフォーマットで収集**することができ、業績管理システムにデータを容易に流し込むことができる。



より多くの方にEndNoteをご利用いただくため、機関や部門単位でご利用いただけるライセンスです。

※価格は利用人数によって変動します。詳しくは弊社までお問い合わせください。

面倒な文献管理と参考文献リスト作成はEndNoteにおまかせ  
「EndNote™ 21」詳細はこちら →



「サイトライセンス」について  
お問い合わせはこちら →

